

令和3年度 事業報告

岡山理科大学附属中学校

優れた教育内容を提供し、学んでいる子ども達の学力をさらに伸ばし、難関大学・難関高等学校入試を突破するだけでなく、社会に出て各分野で活躍できる人材を育成します。



社会のグローバル化や産業構造の転換等により、個人に求められる能力は変化しつつあります。社会の持続的な発展を支えながらも自らの人生を切り開く力が必要です。そのために、事業計画に掲げた次の項目に重点を置いた教育を展開しました。

○人材形成と学力育成

大きな変化が見込まれる将来に向かって、自己の夢を実現し、目標を達成させるためには、まず、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動する姿勢が欠かせません。このため、これまでの知識・技能の教育に加えて、思考力や判断力さらには表現力、そして主体性・論理性という「真の学力の伸長」のための授業改善に取り組みました。また、日々の学校生活を通して、基本的学習生活習慣を身につける教育活動を引き続いて実施しました。その結果、行動の変容などとしてその効果が表れてきています。

○国際理解と国際力向上

異文化を理解し、グローバル化が一層進む社会の中でも逞しく生き抜ける人間力を育むことを目的に、高い英語力を身につけることとし、英語検定試験の合格を目標とした教育に取り組みました。

○家庭との信頼関係

家庭と学校を繋ぐ生活記録ノートを活用して、生徒個々の家庭と密接に連絡を取り合いました。新型コロナウイルス感染拡大により、保護者参加の行事を開催できませんでしたが、教育活動について、生徒の家庭から信頼が得られるように努めました。

○組織力の向上

安定した学年運営を行うために、運営会議などによる情報交換や教職員の意識改革を進め、組織力の強化をするとともに、学校の活性化につながる活動を実施しました。

○経営基盤の安定

経営基盤の安定には生徒数の確保が最も重要であるため、広報活動を戦略的に強化して取り組みました。新型コロナウイルス感染拡大が複数回生じた状況下で、広報行事に多数の参加者を確保し、多くの受験者と入学者の確保に繋げることができました。

私たち教職員一同は、加計学園建学の理念の下、「立志三風」を掲げ、「生活三則」の指導に一丸となって取り組んでいます。

立志三風

- 一、慎独・去稚心の志風を守る（自主）
- 一、振気・勉学の良風と尚ぶ（努力）
- 一、忠恕・爽凜の美風と養う（友愛）

生活三則

- 一、場を清めましょう
- 一、時を守りましょう
- 一、礼を正しましょう

岡山理科大学附属中学校 校長 田原 誠

I. 教育について

1. 人格形成と学力育成に関する中期目標		
中期計画	令和3年度事業計画	令和3年度事業報告
生徒に対して、立志三風と生活三則を継続的に推進します。 【1-1】	■服装指導の実施 モットーは「凜とした爽やかさ」です。規定のものに限らず全てにおいてTPOに合わせ、清々しさを持った着こなしを指導します。 ■挨拶の励行 朝のあいさつ運動や職場体験などを通し、気持ちを込めて挨拶ができるように、また、正しい言葉遣いができるように指導します。この指導が面接での自己表現力に繋がるように努力します。	■服装指導の実施 クラス担任ならびに生徒指導課で、シャツや上着の着こなし方について日頃から指導しました。あまり乱れた服装は見られません。 ■挨拶の励行 毎週水曜に登校指導であいさつを指導しました。昨年度より職員室入室時のあいさつ指導を徹底したこともあり、全体に広がるようになっていきます。
生徒一人ひとりを尊重し、お互い協力できる生徒作りを推進します。 【1-2】	■共通の教育目標 基本的生活習慣を確立して、集団の中で協力しながら生徒が主体的に活動できる力を身につけるよう指導します。 ■将来につながるリーダーの育成 体育祭、爽凜祭（学習発表会）、球技大会、オープンスクールなど様々な学校行事は実行委員の生徒が主体的に運営します。生徒はこのような自主活動の中で企画力、実践力、思考力などを学び、それぞれの人間形成力を育みます。	■共通の教育目標 HR活動を中心に、クラス内の仕事を協力して取り組むように指導しました。コロナ禍により、委員会活動を集まって取り組む事ができませんでしたが来年度は定期的に生徒会委員会を運営するよう改善します。 ■将来につながるリーダーの育成 新型コロナウイルス感染症拡大防止の関係で、昨年度に続いて行事運営が難しい中、体育祭は校内で10月8日に実施し、爽凜祭は、クラス発表を控えて各学年の展示発表を11月6日に実施しました。短時間で集中して、生徒同士が協力しながら準備をしたことで行事は盛り上がり、一体感の醸成につながりました。

<p>学力を定着・向上させるための、学びの習慣化を推進します。【1-3】</p>	<p>■クラス編成 令和元年度入学生からは、SRクラスとして多様な進路志望に対応できるようにし、深い学びを通してしっかりとした学力をつけ、自分の進路をしっかりと考えて選択できる力の養成に努めています。 中学3年生の段階で難関公立高校や難関私立高校への進学を目指す生徒には、進学に必要な学力の養成に努めます。また、高校で求められる、自分の考えをわかりやすく説明できる力の養成に努めます。 中学と高校を一貫して学ぶ生徒には、基礎学力を充実させるところから始め、それをふまえて国公立大学や難関私立大学への進学に必要な学力の養成に努めます。また、科学的・論理的な思考能力を高め、探求活動を推進させます。</p> <p>■共通の教育目標 少人数教育を生かして、生徒の学力の向上を進めます。さらに、国際的な視野を持ちながら、自己の将来を見据えて生徒が進路選択できる力を身につけるよう指導します。</p> <p>■カリキュラム・シラバス関係 SRクラスでは、中学3年の前期までに原則中学校の学習内容を終えます。3年生後期からは、難関高校の受験を目指す生徒の授業では高校入試対策を実施し、中高を一貫して学ぶことを希望する生徒の授業では、岡山理科大学附属高等学校のグローバルサイエンスコースで学習していく上で必要な学力の定着を進めます。</p> <p>■授業・学習関係 (1) 1単位あたり年間 35 時間の授業時間を確保します。また、行事などで授業時間が確保できな</p>	<p>■クラス編成 多様な進路志望に対応できるようにするための基礎学力を高める指導を共通で行うため、1・2年生は、両クラス平等編成を行いました。 3年生は、SRクラスになって最初の学年でしたが、後期より難関公立高校進学を目指すグループと岡山理科大学附属高校へ進学するグループに分かれて授業を行いました。令和4年度高校入試においては第一志望校に 89%の生徒が進学することができました。</p> <p>【主な合格実績】 岡山理科大学附属高等学校 29名 岡山朝日高等学校 1名 岡山操山高等学校 3名 岡山一宮高等学校 1名 岡山城東高等学校 1名 倉敷青陵高等学校 1名 倉敷南高等学校 1名 倉敷天城高等学校 1名 津山工業高等専門学校 1名</p> <p>■共通の教育目標 今年度より全学年がSRクラスとなり、自己の将来を見据えて生徒が進路選択できる態勢となりました。進路指導を体系的に行うための課題について来年度改善を図ります。</p> <p>■カリキュラム・シラバス関係 (1)SRクラスの国語・数学・英語の授業進度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためのオンライン授業期間に少し遅れが出ました。実技系の科目では予定を組み替えて実施したものもあります。来年度は予定通りの学習内容を行えるように対面授業とオンライン授業の混在も検討します。 (2) 3年生の後期からは、難関高校進学グループと理大附属進学グループに分かれましたが、いずれも高校での学習につなげるための教育を実施することができました。</p> <p>■授業・学習関係 (1)今年度は新型コロナウイルス感染症防止のためのオンライン授業期間を合計3回設けました。</p>
--	--	--

	<p>い場合があるため、夏期補習期間などを利用して、補充授業を設けます。</p> <p>(2) 夏期・冬期・春期休業期間中に受験対策として補習を実施します。</p> <p>■ 考査関係 成績不振の判定基準点を設け、基準点に達していない生徒への指導を行います。</p> <p>■ 校外模試 (1) 学習の定着度を測り、全国との学力比較や各生徒の弱点の把握などのために、校外模試を受験します。 (2) 県内の高校入試に対応できる学力を養います。</p> <p>■ 自習教室の開設 全学年の生徒を対象とし、自学自習の習慣を身につけることを目的に、岡山理科大学と連携し、教員志望の大学生を講師とする自習教室を、年間を通して、週3日、放課後に開講します。</p> <p>■ 学習計画の指導 学習計画を立てて、できたことをチェックする習慣が身につくよう、指導します。また、さまざまな活動についての振り返りをまとめ、ポートフォリオが作成できるよう指導します。</p> <p>■ GIGA スクール構想への対応（新規事業） 令和3年度から生徒一人一台の端末を導入し、国が進める「GIGA スクール構想」に基づく ICT 教育の実践に取り組みます。</p>	<p>(2) 冬季休業中に受験対策として補習を実施し、春季休業中には2年生に「勉強講座」を行って、最高学年の学習に備える心構えづくりを行いました。</p> <p>■ 考査関係 5教科（国語・社会・数学・理科・英語）では成績不振の判定基準点を設け、基準点に達していない生徒については保護者への通知を行い、保護者の協力のもと指導を行いました。</p> <p>■ 校外模試 今年度は、1～3年生全体で、県内の高校入試対策として県模試等の各種模試を受験しました。この結果を各生徒に通知して、面接指導等に生かすことで、生徒自身の県内での学力位置を認識させ、早いうちから進路について意識を持たせられるように指導することができました。</p> <p>■ 自習教室の開設 岡山理科大学と連携し、教員志望の大学生を講師として自習教室を通年で週3日、放課後に開講しました。</p> <p>■ 学習計画の指導 「生活記録ノート」を利用しながら毎日の To-Do チェックを行い、「自分史プロジェクト」を通じて、学力の振り返りのみならず、定期的に自己の振り返りしながら改善につなげられるような指導を行いました。</p> <p>■ GIGA スクール構想への対応（新規事業） 文部科学省の補助を受けながら、中学校全生徒にクロームブックを貸与する形で学習を始めました。クロームブックを活用した学習として、英検対策のアプリ学習などを実施しました。</p>
--	--	---

<p>学力を向上させるための、教授法研究を推進します。【1-4】</p>	<p>■授業改善</p> <p>これからの授業に必要とされるアクティブラーニングでの授業や、GIGA スクール構想などに基づく ICT を利用した授業方法、評価方法などの向上を図ります。</p> <p>また、他者を尊重しながら自分の考えを表し深める力や論理的に考えることが出来る力の養成に努めます。このために、附属高等学校で導入している国際バカロレアの教育手法を取り入れます。</p> <p>さらに、教員の授業力強化のため、ケンブリッジ大学英語検定機構認定西日本試験センターJP176 と連携を継続します。</p> <p>■教科会議・学年団会議の強化・連携</p> <p>各教科において、教科主任を中心とした教科会議を開催し、授業改善等の取組みを推進し、情報を共有することで、効率的な生徒の学力向上を図ります。</p> <p>また、学年団会議ならびに中学校担任会議において、生徒の情報を共有することで、的確な指導を行います。</p>	<p>■授業改善</p> <p>教職員の ICT 研修として、クロームブックの利用法 (Google for Education) の研修やロイロノートスクールの研修を行いました。</p> <p>また、論理的に考えることができる力の養成に努めるために、道徳の時間や総合的学習の時間等を利用して、協働学習を行いました。</p> <p>さらに、教員の授業力強化のため、ケンブリッジ大学英語検定機構認定西日本試験センターJP176 と連携を継続しています。</p> <p>■教科会議・学年団会議の強化・連携</p> <p>各教科において、教科主任を中心とした教科会議を開催し、授業改善等の取組みを推進し、情報を共有することで、効率的な生徒の学力向上を図りました。定期的に受験する模擬試験の結果についても、教科担当で情報を共有するとともに学年の成績を踏まえて、指導の改善につなげるようにしました。</p> <p>また、中学校担任会議において、生徒の情報を共有することで、チームによる指導を行いました。中学生は特に、低学年で友人関係やコミュニケーションの問題を抱えやすいので、担任と教育相談室が連携しながら生徒への適切な対応をとるようになりました。</p>
--------------------------------------	--	---

II. 生徒支援について

1. 生徒支援体制の強化に関する中期目標		
中期計画	令和3年度事業計画	令和3年度事業報告
入学から卒業までの支援体制の強化を構築します。【2-1】	<p>■家庭、地域社会との協力・連携強化</p> <p>生徒の日ごろの家庭生活を確認できるような方法を取りながら、家庭との連絡を密にしていきます。また、地域社会の中で生活していることを意識できるように地域との連携を図ります。</p> <p>■教育相談室・保健室との連携</p> <p>思春期である中学生期を心身とも健康に過ごせるように、担任や生徒指導課と教育相談室及び保健室が綿密に連絡を取り、連携を強化します。</p>	<p>■家庭、地域社会との協力・連携強化</p> <p>昨年度から改訂した「生活記録ノート」を活用して、家庭ですべきことを計画して振り返りをするよう、生徒への指導を行いました。コロナ対策のため、保護者が学校に来る機会がめっきり少なくなりましたので、電話連絡を中心に家庭とのつながりを持ちました。しかし、保護者からの要望意見などを取り入れる機会が少ないことが課題となっています。なお地域連携として、中学2年の職業講座に地元企業4社からオンライン講座講師としてのご協力をいただきました。</p> <p>■教育相談室・保健室との連携</p> <p>コロナ禍により、生徒同士の関係作りが難しくなっているため、低学年男子生徒を中心に保健室・教育相談室の利用者が増えました。また、保護者の不安も強まっており、教育相談が多くなっています。担任と教育相談室・保健室の連携により、小さな芽の状態から問題をとらえることができました。</p>
社会との協働で、生徒の視野が広くなり常識的な習慣を身につけられるように、社会との繋がりを強化します。【2-2】	<p>■社会性規範育成への取組</p> <p>社会の一員として生活する上での規範意識の啓蒙に努めます。学校独自としての規則だけではなく、その場の状況に適した言動が取れるよう、常日頃から生徒への指導や話し合いを行います。</p> <p>■情報教育</p> <p>生徒のインターネットリテラシーの現状を踏まえ、情報モラルの向上に努めます。また、SNS等個人情報の適切な扱いを指導します。</p>	<p>■社会性規範育成への取組</p> <p>ホームルームや道徳授業を通じて、学校という狭い世界だけでなく、社会に所属する意識を持って生活するよう意識付けを行いました。</p> <p>総合的学習の時間などでプレゼンテーションの指導を通じ、その場の状況に適した言動が取れるような指導を工夫しました。</p> <p>■情報教育</p> <p>本校教員によるネットいじめに関するプレゼンを、1年生対象に5月に実施しました。また、生徒に対する情報モラルの向上のための指導を生徒指導課により実施しました。</p>

Ⅲ. 国際化について

1. 国際理解と国際力向上に関する中期目標		
中期計画	令和3年度事業計画	令和3年度事業報告
<p>国際化を日常的なものにとらえ、多様な教材等を使用し語学の伸長に対応できる工夫をします。【3-1】</p>	<p>■論理力向上のための取り組み 論理的な文構成の把握や文章作成の能力を養います。また、論理的思考力・表現力の定着度を図ります。</p> <p>■英会話 自ら積極的にコミュニケーションをとれる姿勢を養います。また、1年生から大学入学共通テストを見越し、4技能（聞く、話す、読む、書く）に対応した教育活動を行います。</p> <p>■実用英語技能検定・漢字能力検定を全生徒に実施</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 1年在籍生徒の9割以上が5級以上の取得を目標とします。 (2) 2年在籍生徒の8割以上が4級以上の取得を目標とします。 (3) 3年在籍生徒の6割以上が3級以上の取得を目標とします。 (4) 教員が生徒に対し、積極的に受験指導を行います。 <p>■TOEFL Primary Test を1・2年生に実施・希望者にケンブリッジ Key Test 実施</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 1年修了時にはCEFRのA2レベルをクリアすることを目標とします。 (2) 2年修了時にはCEFRのB1レベルをクリアすることを目標とします。 (3) CEFRのB1レベルをクリアした生徒にはTOEFL Junior Standardの受験を勧めます。 	<p>■論理力向上のための取り組み 国語授業の中で「論理」の時間を週1回設定して、「論理エンジン」を副教材として、論理的な文構成の把握や文章作成の能力を養いました。また11月に「作文検定」を受検して、昨年度も目標数値である3級以上合格者80%以上を達成しました。</p> <p>■英会話 英会話授業を全クラスで実施し、自ら積極的にコミュニケーションをとれる姿勢を養いました。4技能（聞く、話す、読む、書く）に対応した指導を、ケンブリッジ大学英語検定機構認定西日本試験センター JP176 スタッフの協力を得て実施しました。希望者にはケンブリッジ英語検定(12月18日)を受検させました。</p> <p>■実用英語技能検定・漢字能力検定を全生徒に実施 漢字検定は11月に、英語検定は1月に全員受験しました。漢字検定については、1年70%、2年50%、3年30%の目標達成率でした。一方、英語検定は1年80%、2年50%、3年30%の目標達成率でした。 来年度はさらなる達成率向上を目指します。</p> <p>■TOEFL Primary Test を1・2年生に実施 TOEFL Primary Test は、オンライン授業期間が長く実施ができませんでしたので、来年度は実施できるように計画します。</p>

<p>国際化を日常的なものにとらえ、多様な教材等を使用し語学の伸長に対応できる工夫をします。【3-1】</p>	<p>■授業・学習関係 課題に対して論理的・批判的に考えて研究する取り組みを設け、グローバル社会に適応できる人材の養成に努め、語学力の向上を図ります。</p>	<p>■授業・学習関係 岡山理科大学附属高等学校 IB 担当の協力により、中学生向けの「考えるカフェ」を希望者対象で実施し、20名以上の参加を得ることができました。</p>
---	---	--

IV. 組織・運営について

1. 組織力の向上に関する中期目標		
中期計画	令和3年度事業計画	令和3年度事業報告
<p>学校の方向性に対して教職員が一丸となり、ベクトルが一つになるような組織作りを目指します。【4-1】</p>	<p>■学校運営会議の強化 校長、教頭、事務部長、並びに校務分掌の課長で組織する運営会議において、学校全体の運営方針に基づき、学校運営が円滑にかつ革新的に進むよう、学校業務の企画立案および連絡調整を強化します。</p>	<p>■学校運営会議の強化 毎週木曜日に中学校の運営会議を実施して、学校業務の企画立案および連絡調整を行いました。また、教務アプリのClassiで中学校運営会議メンバー間の情報交換がいつでもできるようにしており、会議ができないときも情報の共有を進めています。今後は、附属高等学校との間の連携強化が課題です。</p>

V. 内部質保証について

1. 内部質保証システム体制の確立に関する中期目標		
中期計画	令和3年度事業計画	令和3年度事業報告
内部質保証システム体制の確立と第三者評価を導入します。【5-1】	<p>■生徒による授業評価・教員自身による授業評価 確かな学力を育むために、教員の授業改革が生徒にどのように受け止められているのかを知り、生徒の側から捉えた授業改善を進めるとともに、教員自らが自己評価を行いながら改善点を明らかにして、授業改善に活かします。</p> <p>■生徒・保護者・第三者による学校評価 学校教育活動が教育目標の実現のために適切に行われているかどうかについて、生徒・保護者ならびに第三者による外部評価を頂き、それをもとに学校教育活動のさらなる改善を図ります。</p> <p>■授業計画書の作成 全科目の授業計画書を作成し、授業内容及び授業進度を生徒・保護者が理解できるようにし、円滑な学習活動を助けます。</p> <p>■考査関係 定期考査の成績処理終了後、各教科各学年の学習定着状況を把握し、授業計画書を見直します。</p> <p>■成績評価基準の見直し 観点別評価のルーブリックを各教科で整備して、「知識・理解」に偏った評価にならないよう、授業中の活動や課題提出なども正当に評価し、生徒が主体的に学ぶことができるような教育改革を進めます。</p>	<p>■生徒による授業評価・教員自身による授業評価 今年度は12月に実施しました。この成果をもとに、教員自らが授業改善を行いました。</p> <p>■生徒・保護者・第三者による学校評価 本年度の学校評価を1月に行い、結果を集計、分析して、来年度の学校教育活動の改善につなげます。</p> <p>■授業計画書の作成 全科目の授業計画書を年度初めに作成しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためのオンライン授業を行ったため、計画書を見直して授業を実施しました。これをもとにして授業内容及び授業進度を生徒・保護者が理解できるようにしました。</p> <p>■考査関係 定期考査の成績処理終了後、各教科各学年で成績を共有しています。また、この成績を観点別評価の材料の一つとして、生徒の学習への取り組みが多面的に評価されるようにしました。</p> <p>■成績評価基準の見直し 学習指導要領改訂に伴い、指導要録やルーブリック、成績通知票等を見直しをしました。観点別評価のルーブリックを各教科で整備して、「知識・理解」に偏った評価にならないよう、授業中の活動や課題提出なども正当に評価し、生徒が主体的に学ぶことができるような教育改革を進めています。</p>

VI. 運営・財政基盤について

1. 志願者増加への方策に関する中期目標		
中期計画	令和3年度事業計画	令和3年度事業報告
<p>情報提供を一層強化します。【6-1】</p>	<p>■情報提供</p> <p>(1) オープンスクールや理科実験教室（小学生参加体験型授業）を計画し、印刷物やWeb等により案内を行います。</p> <p>(2) オープンスクールや入試だけでなく、学校の情報をホームページ、FacebookやInstagramでも、迅速に幅広く提供します。</p> <p>(3) 新型コロナウイルス感染症に対応する広報企画を実施します。入試対策講座や入試面接対策講座を含めて、申込者数の確保に努めます。</p>	<p>■情報提供</p> <p>(1) 最初のイベントをYouTube上で実施することで、参加者数が増大、その結果、2000近くの個人情報入手できました。その後、入手したe-mailアドレスを通じて、イベント告知をダイレクトにすることができ、イベント参加者数は過去最大になりました。</p> <p>(2) FacebookとInstagramも開設し、幅広い世代へのアプローチをしようとしていますが、SNSに関しては人手不足・時間不足から更新は滞っている現状で、改善の必要があります。</p> <p>(3) 新型コロナウイルス感染症に対する広報企画として次のYouTube講座を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立中学校適性検査対策 YouTube 講座 ・論理教室 YouTube 講座
<p>塾との信頼関係をより一層強化します。【6-2】</p>	<p>■塾との関係の強化</p> <p>中学校入試における私塾の影響力は大きく、多様化する生徒・保護者の進路実現に向けて、各塾に対しタイムリーな情報発信をします。</p> <p>従来の塾訪問に加えて「通勤経路型塾訪問」を実施し、それぞれの塾に本校教職員の担当固定化を行い、相当数の塾訪問を計画し、円滑に実施します。</p>	<p>■塾との関係の強化</p> <p>塾や小学校との関係構築において、専属担当者2名を固定し、定期的な訪問を通じたコミュニケーションにより、関係性をより強固にすることができました。また、大小問わず、塾での個別の説明会をしたり、講演をしたりすることで、情報提供の場を多く設けることができました。</p>

<p>イベントの内容を充実します。【6-3】</p>	<p>■広報企画</p> <p>「県立中学校適性検査型対策講座」等には多くの児童保護者の参加があります。今年度も継続実施し、引き続き本校教員の各入学試験分析力と入学試験作題力の向上を目指します。この企画では、昨年度行った YouTube 方式の実施と入試 WEB 出願システムへの参加申込みを行います。昨年度の各種広報行事の参加者数 3000 人を今年度も目指します。</p> <p>また、学校見学（個別オープンスクール）にて、児童保護者に対し平素の学校を見学する機会を設け、3年生で開講している学校設定科目「理科実験」の見学を積極的に呼びかけます。</p>	<p>■広報企画</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大により、イベントの内容・時期などを一部変更しつつ実施しました。</p> <p>【実施済みイベント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立中学校適性検査対策 YouTube 講座 ・論理教室 YouTube 講座 ・第1回・第2回オープンスクール（理科実験講座） ・第3回オープンスクール（論理力育成講座） ・第1回入試説明会（兼 面接模試） ・第2回入試説明会（兼 適性検査模試） ・第3回入試説明会（兼 選択教科模試） <p>集客数は令和元年度が 1281 名、令和2年度 2889 名、令和3年度が 4275 名と大幅な増加傾向となっています。ただ、コロナ禍で参加者数制限を設けていることもあり、午前午後の二部開催や同内容を別日開催など、対応に苦慮しました。</p> <p>また、実施後アンケートの満足率は 99% となり、本校受験へのきっかけとして機能しているように見受けられます。</p>
<p>入試制度を検証します。【6-4】</p>	<p>■入試制度の検証</p> <p>多様な力を秘めている児童ひとりひとりの力が測れるように、入試制度を検証し、さらなる受験生増につながる入試制度の策定に取り組みます。また、オープンスクール参加から入試出願まで受験者の便宜を図るため、昨年度導入した「WEB 出願」のシステムを継続して利用します。</p> <p>これらの活動を通じて、昨年度の入学志願者数 400 人を今年度も目指し、来年度入学者数 70 名を目指します。</p>	<p>■入試制度の検証</p> <p>3年前から導入した推薦入試を中心に、昨年度と同様、多様な力を試す入試制度で実施しました。</p> <p>また、定員確保と同時に入学者の質の向上を狙い、推薦入試（自己推薦）の一部において「担任所見」の提出を必須としており、小学校での学習・生活態度など、細かな情報をもとに合否を決定できています。</p> <p>出願、合格発表をインターネットで行うことで、受験者の便宜を図るとともに、様々な資料の郵送代などが不要となり、経費節減につなげています。</p> <p>受験者は令和元年度が 296 名、令和2年度 414 名、令和3年度が 484 名と増加傾向となっています。</p> <p>入学者は令和元年度が 64 名、令和2年度 62 名、令和3年度が 73 名と増加傾向となっています。（*入学者については、正確には表記の翌年度入学。）</p>

主な行事予定

(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンライン授業ならびに行事の中止・延期がありました)

4月8日	始業式
4月9日	入学式
4月17日・5月8日	授業参観【中止】
4月27日	健康診断
5月29日	PTA総会【書面審議】
10月28日～29日	修学旅行代替行事(県内で実施)
11月13日	体育祭(延期・本校グラウンドに変更)
11月6日	爽凜祭(学習発表会)(延期)
12月16日	百人一首大会
3月14日、16日	校外活動(延期)
3月12日	卒業式
3月18日	終業式
3月15日～23日	海外研修(中止)

生徒・教員数

■在籍生徒数

(令和3年5月1日現在)

学校名	入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
岡山理科大学附属中学校	80	62	240	171

(単位：人)

■教職員数

(令和3年5月1日現在)

校長	教頭	教諭	教員計
1※	1	11	12

※校長は附属高等学校と兼任

事務職員
1

(単位：人)

財務関係

■事業活動収支

(単位：千円)

科目		年度	令和3年度 予算額	令和3年度 決算額
教育活動 収支	収入	学生生徒等納付金	93,439	93,716
		経常費等補助金	57,608	60,582
		その他収入	4,707	6,346
		計	155,754	160,644
	支出	人件費	122,127	124,711
教育研究経費		40,242	39,478	
管理経費		12,294	11,228	
その他支出		0	0	
教育活動収支差額			△ 18,909	△ 14,772
教活外	収入	受取利息等	0	0
	支出	借入金利息等	0	0
	教育活動収支差額			0
経常収支差額			△ 18,909	△ 14,772
特別	収入	資産売却差額等	0	4,117
	支出	資産処分差額等	0	0
	特別収支差額			0
基本金組入前収支差額			△ 18,909	△ 10,655
基本金組入額合計			△ 200	△ 34
当年度収支差額			△ 19,109	△ 10,689

■財務改善に向けた取組

安定した学校運営を行うために、定員の確保を最優先課題として受験生のニーズにそった募集活動を展開するとともに体力のある組織を構築するために、改革と削減に加えて選択と集中により人件費及び教育研究経費、管理経費の全体適正に取り組みました。